

ICT 資本と R&D 資本を織り込んだマクロ計量モデルの構築

—2008SNA に準拠した国民経済計算（2011 年基準）のデータを用いて—

久保田 茂裕¹、篠崎 彰彦²

Shigehiro Kubota, Akihiko Shinozaki

〔要約〕

本研究では、2016 年 12 月に国連が定めた国際基準の 2008SNA に対応して改定された国民経済計算（2011 年基準）のデータを用いて、ICT 資本と R&D 資本を織り込んだ日本経済のマクロ計量モデルを構築した。2011 年基準の国民経済計算では、2008SNA に準拠する形で、以前は中間投入に計上されていた R&D を投資として資本に計上する扱いとなった。そこで、本稿では、知識経済化が進む日本経済のモデルを整備すべく、ICT 資本を一般資本と分けて明示的に扱おうと共に、R&D を一般資本に織り込む形でモデルの構築を試みた。構築したモデルで実質 GDP の実績値と理論値の RMSE（Root Mean Squared Error）rate は 1.5% と良好な結果が得られた。

〔キーワード〕 2008SNA、情報通信技術、R&D 資本、マクロ計量モデル、経済予測

¹ 東北文化学園大学総合政策学部総合政策学科准教授

² 九州大学大学院経済学研究院教授